


これはな～んだ！

植田大池の北側でカシャ！
喫煙具のパイプみたいな「ナンバンギセル」



投稿：植田のウォーカー

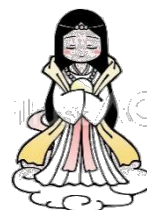
（続）南稜校区内の神社・主祭神のプロフィール < その2 >

◇天照大神(あまてらすおおみかみ) (記紀神話の最高神・女神)

・・・大清水の「大清水神社」、若松の「若松神社」


黄泉(よみ)国から帰った伊邪那岐神(いざなぎのかみ)が、禊祓(みそぎはらえ)をしたおりに化生した神々の一柱で、伊邪那岐神の娘神。高天原(たかまのはら)の主神で日の神である。天照大御神・天照大日靈尊(あまてらすおおひるめのみこと)・大日靈貴神(おおひるめむちのかみ)・天照座大神(あまてらいますおおみかみ)などとも呼ばれている。

禊祓の場は「日向国(ひむかのくに)の橘(たちばな)の小門(おど)の阿波岐原(あわきはら)の河口」。つまり、天照大神の生誕地であり、同時に月読命、素盞鳴命も生誕(化生)した。この三者を三貴子(みはしらのうずのみこ)と云う(古事記)。



◇素盞鳴命(尊)(すさのおのみこと) (記紀神話の男神)

・・・植田の「素盞鳴神社」、野依の「素盞鳴社」

 建速須佐之男神(たけはや すさのおのかみ)。古事記では須佐之男命と書く。父神である伊弉諾神(いざなぎのかみ)より、滄海之原(あおうなばら)を統治せよと命じられたものの、これを懈怠。更には、版図(領土)の配分を巡りその不公平さを怨嗟し、さまざまな乱暴狼藉を働いたため、高天原の社会秩序を大きく乱した。この所業(悪業)の結果、天津罪(あまつつみ:天を怒らせる罪)に問われ、過酷な体罰を科せられたうえ、高天原から追放された。地上界の出雲の地に降りた後は、八俣の大蛇(おろち)の退治等人間社会に対する福祉、また植林事業など国土経営に勤しみ、善神・英雄神として崇められるに至った。

※「みこと」：古事記では「命」、日本書紀では「尊」と表現されている。

投稿：ルポライター 野依のM・Y